鷹南学園

令和元年度　鷹南学園の評価・検証　結果報告

検証項目	１　コミュニティ・スクールの運営
目標	①　開園10周年以降の運営を持続可能にする体制作りを進める。 ②　鷹南っ子生きる力育みプログラム」(挑戦心・やり遂げる力・協働する力)の活動を持続可能にする。 ③　学校経営の協議機関としての取組を重点におく。
取組	①　　持続可能なＣＳ委員会のため、ＣＳによる行事の精選や会議の効率化を図る。 ②「鷹南っ子生きる力育みプログラム」の活動を持続可能にするため、ＣＳ委員会において、取り組みの整理と会議の効率化を図る。 ③　授業公開や学校行事にＣＳ委員の方に積極的に参加していただく。授業公開の際には、委員の方々からの感想や改善意見が反映できるよう、観察カードへの記入を依頼する。

成果	課題と改善方策
・開園 10 周年という記念すべき時を迎えることができ、学園集会等、そのことを念頭においた取り組みを年間を通じて行うことができた。これまでの学園としての歩み、開園当初の想い、事業の根拠や背景、今後の学園運営の方向性等々、ＣＳ委員会で共有化を図る時間をもつことができた。 ・ＣＳ委員会の取り組みに学園生の参加率が低いことが課題であったが、有意義な取り組みであるので、留学生との交流などを授業（教育課程）の中に組み込み、また、学園公開時に行うことで、学園生のみならず、保護者・地域にも取り組みの意義を周知する機会を設定した。 ・学校長が明確な経営指針を打ち出し、意図的、計画的にコミュニティ・スクールとしての運営をしていくことを念頭に、その方針と重点的な取り組みについて、ＣＳ委員会だけではなく、年度当初の保護者会全体会等で周知を図るなど、年間を通して広報活動を遂行した。 ・ＣＳ委員会や地域関係機関と意見交換の場をもち、生徒や教職員の現状を踏まえた行事等の内容の検討ができた。	・学園集会については、今年度、天候上の課題を考慮し、３校に分かれた形で実施した。そのことで一堂に会するという一体感の上で、また、その後実施した子ども熟議を踏まえた取り組みを実現する上で、次年度は、中原小学校を会場に、全学園生が集う機会を設定することとした。 ・留学生との交流については、該当学年の児童全員に対して実施する機会となったことを踏まえ、次年度も複数回継続して実施できるよう計画を立てる。防災訓練については、実施日の調整などの課題があり、どのような形で授業として実施ができるかについては、検討を継続する。 ・ＣＳ委員会の周知については、保護者・地域への啓発はもちろん、ＣＳ委員会を構成するメンバーにも当事者意識をもてるよう、自らの役割と活動の具体化について研修の機会を設け、自己評価が適切にできるようにする。

検証項目	２　小・中一貫教育校としての教育活動
目標	①　昨年度の相互乗り入れ授業の検証を受け、引き続き生徒の学力向上、教員の指導力向上につなげる。 ②　学園行事の内容の精選を行い、交流活動を充実させる。
取組	①　小学校６年算数へ、中学校数学への相互乗り入れを行う。 ②　時間割を工夫し、連絡会議は定期的に実施し、学力向上のための方策を検討する機会としても位置付ける。 ③　きょうだい学年交流、子ども熟議の実施、３校連絡会は実施する。

成果	課題と改善方策
・乗り入れ授業については、保護者からの認識と理解について高まっている旨、ＣＳ委員会評価部からのアンケートにより確認できることから、取り組みの継続による評価が得られているものと考える。なお、学園生の学力向上が保障されているかどうかは課題であったことから、ねらいを明確にし、担当の教員にも負担がなく、達成感のある取り組みになるように、時間割を揃えたり、支援の仕方を具体化するなどの工夫を試みた。 ・学園生自身が目的を理解し、主体的な取り組みができるようにしていくことが、これからの学園の 10 年間の運営に大きく影響することから、学園 10 周年の記念集会のねらいを明確にし、学園生が主体的に取り組めるよう、試みた。	・今年度実施したＣＳ評価部アンケート結果では、乗り入れ授業、鷹南スタンダード等、これまで情報発信を継続してきた内容についての周知や理解が図られつつあることが分かった。これで、啓発の機会を終わるということではなく、新たに入って来る学園生の保護者や地域の参加・参画者に対する啓発等、広報の必要性を鑑み、積極的な情報提供を今後も行っていく。 ・子ども熟議では、学園生として自分たちがよりよい学園をつくるためのアクションを具体化し、アイデアとして提言している。次年度の生徒会・児童会を中心として、実現に向けた話し合いを重ねていくことが必要であり、その計画・立案を行っていく。

検証項目	３　（知）確かな学力
目標	①　新学習指導要領移行を踏まえた授業改善 ②　基礎学力や学習習慣の定着を進める。 ③　鷹南スタンダードの定着を図る。
取組	①　思考力等を重視し、主体的・対話的で深い学びとなるよう授業改善に取り組む。 ②　地域未来塾や生徒会を活用し、学習支援をしながら家庭学習の習慣を身に付けさせる。 ③　鷹南スタンダードの定着のため保護者への周知徹底と自己申告等にスタンダードの取組を記入させる。

成果	課題と改善方策
・鷹南スタンダードをさらに意識する必要があることから、幹事会等での協議を活用しようとした。 ・家庭学習の定着が不十分であることから、９年間の発達段階に応じた課題の出し方の検討や９年間の学びの系統性を踏まえ、本学園、各校の実態に応じたカリキュラムの作成とアクティブ・ラーニングの日常化を図る手立てを実践するための鷹南版カリキュラムを作成した。 ・学園研では、教員がそれぞれの分科会で、共通理解を図りながら具体的に何をどのように改善していくか主体的に自己の考えをもって参加できるようにした。校内研では、日常の授業をいかにアクティブにしていくかをねらいとして研究組織、方法、内容を工夫し毎日の授業に還元できるような研究を進めた。 ・地域未来塾における人材と時間の確保、及び、対象となる児童の選定基準に関して、再検討した。	・幹事会の在り方について、単なる情報共有の場だけでなく、課題の洗い出しと解決策の具体化、運営の主体としての意識啓発等、これまで課題になっていたことを改善するために組織と運営に関する実施の仕方を改善し、次年度実施に移す。 ・各教科や領域で具体化した鷹南版カリキュラムについて、次年度は、それを活用し、実践し、評価し、新たな改善を図る年度となる。新たに仲間に加わるメンバーにも、趣旨と活用に関する共通理解の場を設定し、カリキュラム・マネジメントを実施していく。 ・３観点による目標設定とそれにリンクした３観点による評価の実施に向けて、何をどのように評価していくのかについての実践的研究を行い、授業改善と学園生の育成に向けた活動の実現を図っていく。 ・未来塾については、ボランティアの確保に向けた候補者の枠の拡大を図り、システム等を活用しながら募っていく。

検証項目	４　（徳）　豊かな人間性
目標	①　「鷹南スタンダード（生活のスタンダード）」を定着させる。（みそあじ言） ②　人権教育・道徳教育を充実させ、自立した学園生を育てる。 ③　望ましい態度や習慣を身に付け、自立して生活する力を育てる。 ④　自己有用感や肯定感を高め社会性を育てる。
取組	①　鷹南スタンダードを一層、焦点化、重点化したものにした上で、周知徹底するとともに、教員の自己申告書に盛り込む。さらなる家庭との連携を図っていく。 ②　東京都道徳教育推進拠点校や 人権尊重教育推進校としての成果を強みに、さらに人権教育、道徳教育、支援教育の充実を図る。 ③　カリキュラム・マネジメントを踏まえて様々な教育場面で自主性や主体性が育つように指導を工夫する。 ④　きょうだい交流・中学生のボランティア活動・学校行事を通して自己有用感や肯定感を高める。

成果	課題と改善方策
・学園としての鷹南スタンダードの活用方法については、多岐にわたる視点があり、取り組みの不徹底やばらつきが目立つようになることが課題であったことから、重点項目の具体化や精選等が図れるか検討した。また、発達段階に応じた取組について意見交換、情報共有の機会を試行した。 ・今までの学園として取り組んできた人権教育、道徳教育を基に、各教科との関連や心と体を一体としてとらえる体育的な視点からも意図的、組織的に向上させていくことに取り組んだ。 ・カリキュラム・マネジメントの視点をより明確にし、重点的を図った上で、学力、体力とともに豊かな心を育む実践を行った。	・スタンダードについては、何をどのように意識し、身に付けていけばよいか、見通しを立てにくいことから、学園生の実態に応じて、重点化と見える化を今後も図っていく必要がある。そのために、家庭との双方向的なやり取りを実現できるためのツールを用いた実践につなげていくなど、具体的な動きを付加していく。 ・この数年来行ってきた「心を豊かにする」ための活動を継続することで、互いに励ます態度やよさを認める発言等の姿が認められてきている。メンタルトレーニングで学んできたことを般化させていくなど、心の涵養を図る取り組みを継続する。 ・さらに新学習指導要領のねらいに即した授業展開ができるための指導力の向上を学園として取り組む。

検証項目	５　（体）　健康・体力
目標	拡大幹事会を活用し、学園における健康・体力育成上の課題に対応する。
取組	拡大幹事会では今年度も「体力部会」を設定し、調査等を分析する。教育課程編成や授業改善のための資料の作成を行い、重点的取り組みを明確化する。

成果	課題と改善方策
・体力向上には、継続的・意図的な運動機会の保障が必要なことから、取り組み内容の具体化を図った（例：逆上がりのできる児童を増やすなど）。また、９年間での変容（個々の）を分析することが必要なことから、学園としてのデーター管理と活用を図るために、情報を引き継げるようにした。 ・本校の体育的な環境や子どもの実態に応じた具体策を講じ、体育の授業改善や家庭との連携による運動習慣、生活習慣の改善等をねらいとした「体力向上全体計画」を作成し、年度当初から具体的な取組を開始した。 ・メンタルトレーニングの意義を十分に理解し、教員が日々の活動の中で指導できるようにしていくため、ＣＳ委員会サポート部と連携し、具体的な改善策に従い実践に結び付けた。	・意図的・計画的な取り組みによって、体を動かすことが億劫であったものが、動きのコツをつかみ、実際に動こうとするモチベーションを高めていけるようにすることがこれからも体力向上には必要である。そのために、今後も、定期的に重点的取り組みを明確にした上で、実践する機会を保障していく。 ・メンタルトレーニングについては、数年来、講師を招聘し、継続して同様の取り組みを行ってきた。また、保護者や地域にも広報し、実際に体験する機会を得ることで、周知が図られた。今後は、日常的な取り組みとして、その精神を受け継ぎ、各校の行事や部活動等の場面でそのノウハウを生かせるようにする。 ・情報の引継ぎができるよう、小学校の情報を共有できるようにしたことから、今後、それらをどのように生かしながら、重点的取り組みへリンクさせていくか、その具体を検討し、実際の活動に結び付けていく。

検証項目	６　特色ある教育活動
目標	①　キャリア教育の充実を図る。 ②　オリンピック・パラリンピック教育の充実を図る。
取組	①　キャリア教育の一環として、地域の人財を活用し、働くことへの興味や関心を高める。 ②　オリンピック・パラリンピック教育の推進を通して、体力の向上や国際理解教育の推進を図る。

成果	課題と改善方策
・特色あるキャリア教育も交流活動もただ実施するだけではなく、児童が日常の教科の学習の中で培った力を生かす場としてカリキュラム・マネジメントしていくことを念頭に、特別活動に特化したカリキュラム・マネジメントに基づき、総合的な学習の時間や生活科などの交流活動においても汎用性のある力を伸ばすことを視点に計画・実行した。 ・スクール・コミュニティの視点からも、キャリア教育の深まりが必要であることから、地域貢献等、一員としての意識を高める取り組みを行った。 ・オリ・パライヤーを踏まえ、実践的な関わり方を考える機会を設定するほか、本物との出会いを継続することで、意欲や意識を高めた。 ・ＣＳ委員と各取組のねらいを共有したうえで、連携した職場体験先やゲストティーチャーの確保ができた。	・学園生が主体的に特別活動に取り組めるようになるためには、見通しと手立ての共有化が必要となる。小・中の連携や交流を行う場面など、効果的な指導が施せる機会を明確にし、指導者の共通認識のもと、力の育成に結び付けられるようにする。 ・学園内に生活する大人は、職業人としてまさに「本物」であることから、キャリア教育における人財として、計画的に派遣ができるよう、見通しをもった対応を行う。スクール・コミュニティ推進に当たっての柱となるようにしていく。 ・オリンピック・パラリンピックの実施年度に当たり、本物との出会いの場面設定については、今後も、意を用いるようにし、生涯スポーツの精神涵養の機会ともなるようにする。

検証項目	７　学校教育の質の維持向上を目指した学校の働き方改革
目標	①　教員のタイムマネジメント力の向上 ③　地域行事等への参加の工夫等 ③　完全閉庁日の設定 ④　部活動指導の見直し
取組	①　ＩＣＴを活用しながら、教員のタイムマネジメントが行えるようにする。 ②　地域行事については、年度当初から見通しをもち、計画的に参加ができるようにする。 ③　完全閉庁日（休暇取得推進日）を設定し、完全遂行する。

成果	課題と改善方策
・完全閉庁日が拡大し、校内警備等、施設・環境管理の長期的遂行の実現を図った。 ・働き方改革の推進に当たって、外部人財の効果的な活用も念頭におき、取り組みを進めた。 ・地域との関わりをもちながら、働き方改革に対する意識はもてた。効率的な仕事の仕方や地域行事への割当制など、働き方改革案を具体化し、実行に移した。 ・部活動指導員及び外部指導員と教員の役割分担を明確にできた。	・完全閉庁日の実施については、他機関の施設利用、校務システムによる実態把握、及び、勤務内容による柔軟な設定など、実態に応じながら、適切に履行することが大切である。教職員による趣旨理解のもと、今後も、実施に向けた体制を確立させておく。 ・他機関と連携する機会が多くなり、そのことで会議が増えるなど、勤務時間の利用目的によって、働き方が変化していく。学園生の育成に当たって必要感の高い会議となるよう、事前の準備を適切に行っておく。 ・教職員が居住する地域においても、地域に参加・参画できるよう、互いに win-win となる行事参加ができるよう、年度当初の計画を踏まえた実行が果たせるようにする。突発的なものに対しては、是々非々で対応する。また、大人熟議でテーマにしたことから、地域行事の設定については、相互に工夫し合える雰囲気の醸成に今後も努める。 ・部活動指導員及び外部指導員の人財確保に努めるとともに、生徒に関わる人財としての感覚の育成が必要である。

令和元年度　鷹南学園の評価・検証結果のまとめ

（１）から（７）の検証結果を踏まえて

１　「小・中一貫教育」及び「コミュニティ・スクール」の取組において特によい成果が得られたこと	
・主体的、対話的で深い学びを目指す授業改善の具体化を図ることができた。 ・自己肯定感の高揚を意識しながら粘り強く学習に取り組むための方策について検討することができた。 ・子ども熟議、大人熟議によって、開園 10 周年後の学園としての方向性について検討することができた。 ・鷹南コンサート等、これまでの取り組んできた事業の評価を行い、実施に向けた調整を図った。	
２　今年度に明らかになった課題のうち、特に次年度の重点とすること	
①　スクール・コミュニティの形成・充実を念頭に、次の 10 年を見定めた取り組みを具体化する。 ②　作成した鷹南版小・中一貫カリキュラムの実施・評価・改善を図る。 ③　鷹南スタンダードの重点化、明確化を図り、家庭・地域・学校が一体となって実践に移す。 ④　ＣＳ関連事業や地域との連携における学園生やその保護者の参加・参画者の拡大及び調整	
３　「２」の重点課題を解決するための改善策	
①　年間を通じて、学園生や地域・保護者とのつながりを意識し、多世代と当事者意識という2つのキーワードを念頭に取り組めるようにする。 ②　学園研と校内研のより一層の連接を図る。 ③　教務・生活・研究部による鷹南スタンダードの重点具体化と双方向型の取り組み継続のためのツールづくり ④　実施時期及び場面の検討(防災教育、異文化交流等)	